

---

# 知らない初恋の人。

モノ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

知らない初恋の人。

### 【Nコード】

N1755F

### 【作者名】

モノ

### 【あらすじ】

平次と和葉。平次の初恋の人について。オリジナルキャラで和葉の友達が出てきます。

平次が好き

平次は誰が好きなん？

まだ初恋の人の事好きなん？

幼馴染みとしか思ってくれへんの…？

「…葉！…和葉！」

「…え！？な、何？」

「何？やないやろ。さっきから呼んでんのやで」

「ごめん、考え事しとって」

あははは、と笑ってごまかす。

放課後、教室であたしは平次の部活が終わるのを友達のミカと待った。

「考え事って服部君の事やろ？」

友達は目の前でニヤニヤしながら言ってきた。

「…そっ」

「そんなやないって？ちゃうやろ。聞いたるから言ってみ」

「…不安やねん」

「なにが？」

「いつか平次が初恋の人のところに行ってしまうんじゃないかって  
「あー京都の。いっそのこと思い切って聞いてみたらええやん」

聞く？初恋の人誰て？

「無理やろー…」

シヨンボリしとつたら友達はいきなり立ち上がった。

「服部君が好きなんやろ!？」

「…うん」

「自分の知らん初恋の人が気になるんやろ!？」

「…気になる」

「服部君は言わなわからん鈍感男や!聞け!」

「…せやけど」

「せやけどやない!帰り聞いてみいや!」

なんや熱くなりすぎや。

聞けるわけないやん、怖過ぎるわ。

「和葉居るか？」

声がしたほうを見ると平次が立つとつた。

「終わったん？」

「おー。すぐ帰るやる？」

「うん。あ、ミカ途中まで一緒に…」

「えーよ。邪魔しちゃ悪いし？」

ニヤニヤしながらあたしを見てきた。

「服部君、和葉、ほなまた明日ね！」

「おう」

「うんー…」

ミカはあたしの横を通り過ぎる時に小さく呟いた。

「ちゃんと聞くんやで」

「和葉、俺らも帰るか」

そう言うてスタスタと先を歩いとる。

「あ、ちょお待って」

「お前今日おとなしいやん」

「そっ？」

三方のせいや

「そのへんのもん拾って食べたらあかんやろ」

「なっ！」

「食い意地はつとるしな」

「食べるわけないやろ！」

聞くんや…でも、初恋の人の人の事知ってどないすんねん。  
勝たれへんのを実感するだけやん…  
でも、聞かなあかな…

「なー、平次…」

「なんや？」

「は、初恋の人て、誰やったん？」

「なんやねん急に。」

「どんな人かでもええし」

「…せやなー、アホでいつも笑つとるけど泣き虫で世話焼きで」

「…平次…もう、ええわ」

聞いとるのが辛い。

やって平次の顔めっちゃ幸せそうやねんもん。

せやけど平次はあたしの腕を掴んで、目を見て続けた。

「…聞いてきたんやから最後まで聞け。…そいつはとにかくアホや。  
俺は憎まれ口ばっか叩いてまう。せやけど誰にも渡したない、俺は

そいつのことが」

「…もうええって！聞きたくない！」

聞きたくない。

聞かなければよかった。

あかん…泣きそうや。

「そいつのことが、好きや」

初恋の人が好き…

そうなんや…

涙を止めようとしても、もう遅かった。

「そう、なんや…」

「和葉」

「手、離して」

「和葉」

「手え離してや！」

平次はあたしの腕を掴んどった手を離すかわりに、あたしを抱き締めた。

「好きや」

「へ、い…」

「お前が好きや」

「初恋の人は…」

「…お前」

「あつあたし!?!」

平次はあたしを離して、真っ赤な顔して言った。

ありえへん…あたしが初恋の人とか…

「嫁さんを姉さん間違えとるアホな女や」

「アホて…!」

平次はいたずらな笑顔を向けた。

「平次なんか嫌いや…」

「は!?!?ちよ…!」

一変して焦つとつたから、ちよつとおもろなつた。

「嘘やで?あたしも平次のこと好きやし…!」

あたしがそう言つと平次はまたあたしを抱き締めて

「アホ女!」

つて言った。けど声が嬉しそうやったからアホ言われた事は許したるわ。



やっぱり聞いて良かったな。

平次の初恋の人、あたしやったなんて思わへんかったけど、ミカには感謝せな。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1755f/>

---

知らない初恋の人。

2010年10月16日00時37分発行